Cruises Historia

ゆたか倶楽部 よもやま話

クルーズご意見番〝初代クルーズマスター 松浦睦夫〟が語る

vol. 15

1991年に就航した郵船クルーズの「飛鳥」は2万8856トン、旅客定員604名のクルーズ客船です。最初は「お金持ちの乗り物」のイメージがありましたが、1996年から100日間の世界一周クルーズをスタートさせ、順調にファンを増やし、2004年ごろにはなかなか予約が取れないほどになっていました。

新しい飛鳥の建造計画が持ち上がりましたが、クルーズ客船は計画から完成まで約3年かかります。大型のクルーズ客船が造船できる造船所は、世界中を見渡してもイタリア、ドイツ、フランス、フィンランド、日本ぐらいしかなく、当時は世界的クルーズブームのため何年先までドック（造船所）の予約が立て込んでいました。

そこで郵船クルーズは新しく船を造るのではなく、もっと大きな客船を購入し、改装することになったのです。白羽の矢が立ったのは「クリスタル・ハーモニー」です。日本郵船の子会社であるアメリカのクリスタル・クルーズ社が所有する3隻の内の1隻で、「飛鳥」と同じく三菱重工長崎造船所で建造された船です。でも実は「飛鳥」より1年古い船でもありました。2005年11月末からのカナダのビクトリア造船所で改装工事に入り、12月下旬に完成。年末年始にかけて太平洋を横断し、翌年1月5日に横浜でさらに改装工事を続けられました。

クリスタル・ハーモニーから飛鳥Ⅱへの改装は、アメリカ仕様から日本仕様への大変身です。

新しく設けられたのは、日本人向けの客船には必須の大浴場です。もともとは11デッキにあった開閉式屋根を備えた室内プールエリアでしたが、この改装で11デッキの室内プールはなくなり「リドガーデン」になり、その上の最上階である12デッキに「グランドスパ」として作られました。この改装により非露天区画が増え、総トン数が5万1442トンに変更となります。また「リドガーデン」は「リドカフェ」と連なる空間となり、大人数が一度に収容できる食事のスペースになりました。

改装によりなくなった設備はカジノ、キッズルームです。カジノは日本では認められていませんし、キッズルームは飛鳥のお客様層においてはわざわざ設けるほどではないという判断だったのでしょう。細かい部分で言えば、トイレが全てウォシュレットに変更されました。改装費用は、改装前の記者会見で、「概算で30～50億円」と郵船クルーズ社長が発表していますが、実際にはもっとかかったと思います。でも、その当時の建造船価は250億円と言われていましたので、時間的にも金銭的にもこの選択がお客様のニーズに応えるためには最適だったのでしょう。船は3万トンから5万トンと大きくなり、1・6倍のお客様に乗っていただけるようになりました。

2月22日に、母港となった横浜港大さん橋に着岸。2月26日に女優の岸惠子さんをゴッドマザーとして命名記念式典が行われ、私も招待をいただき、岸惠子さんと当時の中田宏横浜市長（現、衆議院議員）の横に座りました。その後、日本各地でのお披露目を兼ねて習熟航海を行い、3月17日に正式デビューとなったのです。

デビュー後のクルーズの途上で、排水の逆流、大浴場の温度が上がらない、大浴場の扉が開いてお湯が外に溢れる、自動ドアやエレベーターが動かないなど、設備上のトラブルが重なりました。そのことを報じる記事が5月20日の朝日新聞大阪版の夕刊1面に掲載されました。その1年後にドッグメンテナンスをした際に、「クリスタル・ハーモニー」時代のメンテナンスが要因の一つだったことがわかったそうです。その後もテレビ台を日本人向けの高さに変更するなど少しずつ改装を重ねていきました。

「飛鳥Ⅱ」は現在シンガポールのドック「センブコープ・マリン」で、45日間かけた改装を実施、3月に改装が終わります。

最上階の12デッキのグランドスパに日本船初の露天風呂エリアが誕生。これまでにない解放感と絶景を楽しむことができるでしょう。他にも和洋室の登場や、レストランやブックラウンジの充実など。生まれ変わる飛鳥Ⅱが楽しみです。

さらに数年後には新造船「飛鳥Ⅲ」を建造し、「飛鳥Ⅱ」、「飛鳥Ⅲ」の二隻体制で運航されることを聞くにつけ、今後はコロナウィルスなどの新型肺炎によるマイナス面もありますが、クルーズ業界に五十年間携わってきた私としては、日本の悲願であるクルーズ人口50万人達成は夢ではなく現実になることを切に期待しています。

日本のクルーズ略史

1990年	「クリスタル・ハーモニー」デビュー
1991年	「飛鳥」デビュー
2006年	「飛鳥Ⅱ」デビュー それに伴い「飛鳥」売却
2020年	「飛鳥Ⅱ」に露天風呂完成